

「報恩講によせて」

私は、笠松別院輪番として福井県から笠松に来て3年になります。その福井で住職をしているお寺の周りには、一年に何度となく、熊や猪、そして40～50匹の猿等が出没し、庭を荒らしたり、作物をごっそり持って行きます。寺の本堂の天井には白鼻シンの夫婦が家賃も払わず永年住み着き、たくさんの排泄物をしてくれます。近くの日本海では、明治以来20～40年に一度の現象だった大型越前クラゲが、今では毎年漁業に大打撃を与えています。また、タミフルの効かなくなった新型インフルエンザや、農薬の効かないスーパー雑草まで出現、ペットやブラックバスを無責任に放すなど、今や陸も海も、そして空までもゴミの山です。

福井新聞には「生きものたちのSOS」というシリーズが掲載され、その原因の一つに温暖化をあげ、「人間にも責任がある様な気がしないか？」という遠回しな解説を付けていますが、私はこれら全て人間の責任だと思います。むしろ、他人（ひと）ではなく、私自身がしてきた結果だと考えています。

宗祖親鸞聖人のご恩に報謝する一年で一番大切な御仏事、報恩講のこの時期、私達は聖人のお念仏に遇い、過去を引きづり、未来に不安を抱き、現在にしつかりと足を付けていない、自分さえ良ければいいという生き方が、やがて生きものの住めない地球にしてしまうことに早く気付かなければならぬと思います。

受け難き人身を今すでに受けていることに深く感謝出来る身にさせていただくことが、報恩講の大仕事だと思います。